

福井県内小学校 学校数・児童数の推移

昭和 → 平成	学校数	児童数	平成 → 令和	学校数	児童数
1958(昭和33)年	364校	114,342人	2019(令和元)年	196校	41,062人
1989(平成元)年	244校	65,389人	2025(令和7)年	188校	35,841人

小学校適正規模・配置対応の目安(文科省手引きより)

学級数	規模の特徴	検討の要否
1～5学級	複式学級が存在する規模	学校全体の児童数や指導方法等にもよるが、一般に教育上の課題が極めて大きいため、学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討することが必要。
6学級	クラス替えができない規模	学校全体及び各学年の児童数が少ない場合は特に課題が大きいため、児童数の状況や、更なる小規模化の可能性、将来的に複式学級が発生する可能性も勘案し、学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討することが必要。
7～8学級	全学年ではクラス替えができない規模	学校全体及び各学年の児童数も勘案し、教育上の課題を整理した上で、学校統合の適否も含め今後の教育環境の在り方の検討が必要。今後の児童数の予測も踏まえ、将来的に複式学級が発生する可能性が高ければ、6学級に準じて速やかな検討が必要。
9～11学級	半分以上の学年でクラス替えができる規模	学校全体及び各学年の児童数も勘案し、教育上の課題を整理した上で、児童数予測等を加味して今後の教育環境の在り方の検討が必要。

適正規模・適正配置の検討が求められる背景

- 少子化の急速な進行
- 共働き家族・ひとり親家族の増加
- 地域コミュニティの衰退
- 学校施設の老朽化
- 交通機関の発達
- 生活圏の変化
- 個別最適な学びと協働的な学びへの対応

学校の再編・統廃合



少子化の急速な進行など社会が大きく変化している中、公立学校を取り巻く状況の変化とあわせて、公立学校の統廃合に関する検討が求められている自治体が多くなっています。

義務教育段階の学校の目的は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うことであり、学校では、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要であること等から、学校は一定の規模を確保することが重要です。

学校規模の適正化の検討は、あくまでも児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に据え、学校教育の目的や目標をより良く実現するために行うべきものです。

また、学校は地域のコミュニティの核として、防災・保育・地域の交流の場等の機能を併せ持ちます。地域の実情により、学校統廃合が困難な

理科挿絵原画展
やさいとくだもの

「理科挿絵の世界」理科を描いた挿絵画家 天木茂晴 原画コレクション(当館蔵)

理科に関わる本には、精細で鮮やかな図版が多く描かれています。以前多くの図版は、挿絵として画家が手描きで描いていました。手描きの挿絵は、字裏には出来ない表現をよく観察し、研究して描かれています。今回は、コレクションの中から「やさいとくだもの」を選び、天木茂晴の作品を紹介します。

令和8年 3月26日(木)～5月17日(日)

開館時間：午前9：00～午後5：00(入館は午後4：30まで)
休館日：月曜日(祝日の場合はその翌日)・祝日の翌日

福井県教育委員会 福井市教育委員会 福井市立教育博物館 福井市立教育博物館 福井市立教育博物館

TEL:0776-58-2250 / FAX:0776-58-2251
E-Mail:edu@pref.fukui.lg.jp

入館無料

理科挿絵原画展
やさいとくだもの

理科挿絵画家・天木茂晴「挿絵原画コレクション」当館保存の理科挿絵の中から、身近な「やさいとくだもの」を展示します。精細で鮮やかな原画をご覧ください。

場合や小規模校として存続させることが必要な場合もあり、こうした判断も尊重される必要があります。

【文科省リーフレットより】
県内各市町でも、今後歯止めがかからない人口減少に伴い、各地で小中学校の再編・統廃合が進められています。対象の区域では、設置者の説明会、保護者や地域の代表、学校関係者が参画する再編準備委員会などを設置して、課題を協議しています。

今年度末の主な動き (再編・統廃合)

福井市	美山啓明小学校	美山小学校
	下宇坂小学校	
	羽生小学校	九頭竜中学校
	森田中学校	
	灯明寺中(河合地区)	
大野市	小山小学校	有終南小学校
	阪谷小学校	富田小学校
越前町	萩野小学校	織田小学校